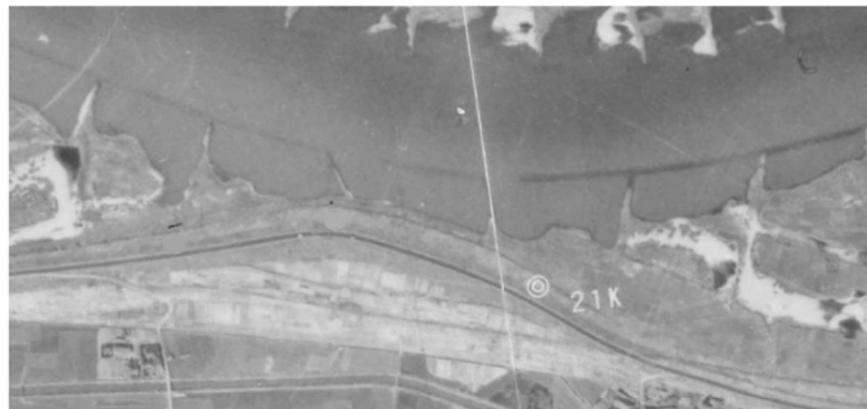


議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 点野野草地区の変遷、現状及び課題について</li> <li>2. 「みんなで育てる河川公園（仮称）モデル地区の選定について</li> <li>3. 「点野野草地区地区会議」のあり方について</li> </ol>
----	---

■点野野草地区の変遷



昭和23年(1948)



昭和53年(1978)

■点野野草地区での市民活動の状況（上田委員提供資料）



■点野野草地区の現状及び課題（地域協議会審議資料）



(撮影：平成 25 年 7 月)



■「みんなで育てる河川公園（仮称）」モデル地区の選定  
（地域協議会審議資料）

1. 淀川河川公園の管理運営方針

- 安全、快適に利用できるようにする
- 淀川にふれ、学ぶための機会を増やす
- 多様な主体の参加と連携を図る

2. モデル地区設定の目的

より多くの人々に淀川河川公園を安全・快適に利用していただき、淀川にふれ・学ぶための機会となる体験プログラムの実施等の内容を充実させていくために、公園の整備や管理運営の過程において、利用者・利用団体に参画していただくことが重要です。  
淀川河川公園では、他の国営公園に見られるような公園の利用者に様々なサービスを提供する市民団体や市民ボランティアの組織化の例がほとんど見られないのが現状です。  
そこで、淀川河川公園を利用するさまざまな主体が公園の管理運営に参画・支援していただけるような、利用者・利用団体、地域住民、教育機関、企業、地元自治体、公園管理者等による連携のしくみづくりを試行するモデル地区を設定します。

3. モデル地区の位置づけ

モデル地区は、これからの淀川河川公園の管理運営に主体的に参画していただく利用者・利用団体と、それを支援する市民、市民団体、企業及び行政機関等との望ましい役割分担のあり方を試行しながら、淀川サポート制度の活用等により緩やかな組織化をめざす地区と位置づけ、その過程で得られた知見を他地区の公園管理運営に活かします。

4. モデル地区の候補

- ・淀川河川公園の開園済み地区の中で、地域住民や市民団体による利用が相対的に高い頻度で行われている地区をモデル地区の候補とします。
- ・中流左岸域においては、点野砂州及び点野ワンドにおいて地元の市民団体等による清掃、植生管理、環境学習が継続的に実施されています。

【事務局提案】

中流左岸域の「みんなで育てる河川公園（仮称）」モデル地区を、点野野草地区とする。

■「点野野草地区地区会議」のあり方について（地域協議会審議資料）

1. 地区会議開催の目的

「みんなで育てる河川公園（仮称）」モデル地区において、淀川にふれ・学ぶための機会となる体験プログラムの実施等の公園利用サービスの内容を充実させていくため、公園の利用者・利用団体や、将来の利用が想定される地域住民、教育機関等から、今後の点野野草地区の整備や管理運営の進め方について意見をいただくとともに、将来、点野野草地区の管理運営に主体的に参画していただける活動組織の形成につなげていく。

台風 18 号による被災のため  
開催を次年度に延期

2. 地区会議の構成メンバー

地区会議の構成メンバーは以下を想定する。

- ・過年度に開催した木屋元・太間・点野野草・仁和寺野草地区地区会議の参加者のうち、点野野草地区で活動を行っている個人または団体
- ・点野野草地区の周辺地域住民
- ・点野野草地区を将来利用する可能性がある市民団体、関係機関 等

3. 地区会議の開催日時・場所

- ・地区会議の開催時期は、11 月中旬を想定する。
- ・地区会議の開催場所は、中央流域センター、点野流域センターまたは点野野草地区周辺の適切な場所を予定する。

4. 地区会議の結果の活用と今後の流れ

- ・地区会議でいただいた意見を参考に、太間・点野野草地区公園整備計画に示された整備・管理運営項目の具体的な内容を検討する。
- ・地区会議の参加者の同意を得て、毎年 1 回程度継続的に地区会議を開催し、再整備後の公園の管理運営の進め方について継続的に意見交換を行っていく。
- ・淀川河川公園の管理運営に対する市民・市民団体の参画の先進モデルとして、複数の個人や市民団体等により構成される緩やかな連携組織を形成し、公園を利用したさまざまなプログラムの運営や、公園利用を促進するための管理活動の実施主体となっていただくことをめざす。